

**熊本市住生活基本計画の改定（骨子案）に関する住宅審議会審議内容
審議頂いた際のご意見とそれに対する本市の考え方**

	ご意見・ご提案等	本市の考え方
	【論点1 現行の住生活基本計画達成状況と現状、課題について】	
1	人口を増やすためには子育て世代・若い家族を増やすことが重要である。	関係部局(熊本市こども局)、団体と協議し素案に記載できるよう検討します。
2	住宅の耐震化について、補助を旧耐震に限らず拡充してほしい。	熊本地震罹災証明により平成12年以前築の住宅まで要件を拡大済です。金銭的な事情で2回に分けて耐震改修を行う段階的な補助も令和5年度から開始しました。
3	仮設住宅や伴走型住まい確保支援の記載が計画にあるとよい。	地域防災計画に記載されています。 また、骨子案2枚目「目標2 2.災害に強い住宅づくりや防災意識の啓発」に記載を検討します。
4	能登半島地震で仮設住宅が恒久的に使えるものであれば長期的に生活環境が確保できるとの議論が出た。用地確保が課題だが、可能性も含め、柔軟に対応できる記載内容がよい。	素案作成時に記載内容を検討します。
5	住教育が不十分。今以上に教育委員会との連携が必要。 住教育は家庭科、総合でやる。家庭科「衣食住」の中で「住」は具体的にどのような内容を学習すべきかを記載できるとよい。	現行計画に記載されています。 内容を見直し、素案作成時に記載内容を検討します。
6	現行の検証指標「地域子育て支援拠点施設利用者数」は指標として逸れている。子育て世帯の子どもの年齢によって状況が異なる点も考慮してもらいたい。	素案作成時に検証指標及び記載内容を検討します。
7	「子育て支援」「断熱化」「省エネ」「DX」を新たな課題として記載することは当然だと思う。	承知しました。
8	子育て支援を考える上で、こども食堂等の子育て関連施設も大事であり、「まち」の観点にも入ると思う。どのような施設が「まち」にあればよいか、施設数の指標もあってよいと思う。	素案作成時に検証指標を検討します。
9	ひとり親世帯が低廉な家賃の住宅がなく困っている現状があり、支援や政策を考えるべき。	国、県の支援内容、方針を確認のうえ政策化について検討します。
10	検証指標「高齢者の通いの場」は、タイプや交通手段の充実も踏まえて考えることが大事で、「まち」の視点にも関連すると思う。	素案作成時に記載位置、内容を検討します。
11	障がい者サポーターや防災士の人数も社会資源のひとつとして情報があつたがよい。	素案作成時に検証指標を検討します。
12	高齢者居住安定確保や耐震化など、達成・達成見込みだが課題として継続的に取り組むべきものを抽出したとのことだが、これは住生活基本計画として当然だと思う。	承知しました。
13	連帯保証人の要件で高齢者の住み替えが実現しないので、支援体制を明らかにする方がよい。	素案作成時に記載位置、内容を検討します。
14	単身高齢者の孤独死がリスクで断られることが多い。社会福祉協議会とともに取り組んでももらいたい。	承知しました。
15	「ひと」の課題の3つ目、「住宅確保要配慮者が安心して住まいを確保できる環境づくり」も、子育て・高齢者と同じように「住まい・住環境の充実」にしたがよい。	素案作成時に検討します。
	【論点2 住生活基本計画骨子案における目標等の設定について】	
16	基本理念に「住み続けたい、住んでみたい」とあるので、住生活基本計画の一番上に掲げる文言として適切である。 住宅の質が高くなくても生活環境が経済状況にマッチしている、自分に合う選択肢があるというのも必要な観点である。	承知しました。
17	基本理念の「上質」という語は抽象的。ハード・ソフト両面あると思うが、「上質」でまとめられるか。	素案作成時に用語の定義を記載し、文言を整理します。

熊本市住生活基本計画の改定（骨子案）に関する住宅審議会審議内容
審議頂いた際のご意見とそれに対する本市の考え方

	ご意見・ご提案等	本市の考え方
18	基本目標1「安心な住まい」と2「安全な住まい」が似ていて分かりにくい。1は、例えば「安心できる住まいを確保する」といった表現はどうか。	「目標1 誰もが心豊かに暮らせる『安心な住まいの実現』」を『安心な住まいの確保』に修正します。
19	空家等対策計画もあるので、住生活基本計画でどこまで書き込むかは別問題だが、「上質」を掲げるのであれば、空き家の質に応じた具体的な対策・指標を記述されたい。	現行計画では住宅・土地統計調査の結果より空き家の腐朽・破損率を指標としているが、今春改定予定の空家等対策計画には掲載されない。 素案作成時に検証指標、記載内容を検討します。
20	DX化に関して、入居情報とマイナンバー連携を検討している。行政でも何ができるか、住宅政策分野に限らず、福祉部局、文化市民局等と連携を検討してほしい。	承知しました。
【論点3 住宅セーフティネット計画・高齢者住まい計画骨子案について】		
21	住宅セーフティネット計画、高齢者住まい計画を住生活基本計画と分離して良い。	承知しました。
【住宅セーフティネット計画について】		
22	セーフティネット住宅の家賃平均はどれくらいか。生活保護受給者は選択できないということか。戸数ではなく、安い家賃で入居できるセーフティネット住宅が整備されると有意。	現在、熊本市のセーフティネット住宅家賃平均は約52,000円です。住宅扶助31,000円以下は約120戸 存在します。
23	セーフティネット住宅を新しく整備すると家賃が高くなる。現状の低廉な住宅の活用を検討する必要がある。保護世帯が入居できる家賃帯の住宅の住宅改修に県・市の補助が別途ほしい。	検討します。
24	セーフティネット住宅は新耐震を満たさないといけませんが、セーフティネット住宅ではなく空き家を住宅確保要配慮者に貸し出す取組みを大牟田市がやっており、空き家と住宅確保要配慮者の課題に対応した取組みといえる。	参考にさせていただきます。
25	公営住宅への申し込み後の入居辞退も多く、住宅セーフティネットは民間を踏まえて考慮するべき。	承知しました。
【高齢者住まい計画について】		
26	介護保険や市独自のバリアフリー補助があるが、バリアフリー改修の方法を相談できる専門的な体制、窓口があればよい。	介護保険による改修はケアマネージャー、福祉住環境コーディネーター等が意見を記入します。 本市独自の補助金も、標準仕様を情報提供したり、福祉住環境コーディネーター・建築士の資格を持つ職員が随時相談に応じています。
27	バリアフリー化の基準では、手すり等が2ヶ所以上となっているが、今の住宅は満たしているものも多い。その人に合った改修、外出につながる改修になればよい。柔軟な補助ができればよい。	参考にさせていただきます。
28	リハビリ職の派遣を改修の条件とすれば住宅の環境向上につながる。既存制度の拡充も大事な視点。	参考にさせていただきます。
29	住教育の分野で、若い世代に高齢期の住まいを知ってもらい、住宅選びの際に最初からバリアフリー対応物件にするなどすれば、質の高い住宅確保になる。高齢者の住環境の底上げも期待できる。	参考にさせていただきます。
30	大牟田市で、空き家を開放して認知症の人が生活しながら、地域で見守りしている。熊本市で実施する際の課題が具体的に見えるとよい。また、熊本市のアネシスという企業は、住教育や情報提供を民生委員に対して積極的に取り組んでいるが、住教育や情報提供に取り組む企業への支援を拡充すれば上質な環境となる。	参考にさせていただきます。